

学校教育における課題（いじめ、不登校、部活動地域移行、学校運営など）について

1 現状

(1) いじめ

- ・令和4年度件数（対前年）： 小学校 275 件（123 件増）、中学校 18 件（8 件減）
- ・令和5年度（11月現在）件数（対前年同期）： 小学校 99 件（75 件減）、中学校 15 件（8 件増）
- ・重大事態（※）ケース： R5 年度（11月現在）件数：小学校 2 件、中学校 1 件。

※「重大事態」とは

いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき（生命心身財産重大事態）、児童等が相当の期間（年間30日を目安）学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき（不登校重大事態）をいう。

- ・生徒間トラブルの小さな事象も拾い上げ、丁寧に対応中。
- ・大栄中学校3年生事案対応中（調査、心のケア、学習保障）。
- ・学校：いじめアンケート、ハイパーQU調査。教育委員会：いじめをなくそうサミット。

(2) 不登校

- ・令和4年度件数（対前年）： 小学校 17 件（2 件増）、中学校 27 件（4 件増）
- ・令和5年度（11月現在）件数（対前年同期）： 小学校 12 件（2 件増）、中学校 23 件（2 件増）
- ・学校：支援会議、スクールカウンセラー等相談受付、別室登校、家庭連携、在宅学習。
- ・教育委員会：スクールソーシャルワーカー配置1名、中部子ども支援センター共同運営、フリースクール利用料助成。
- ・R5教育委員会視察研修。広島県内小中2校の「スペシャルサポートルーム」
- ・町議会議員も注目。一般質問、12月議会3人、6月議会1人。

(3) 部活動地域移行

- ・国改革推進期間：令和5～7年度。県推進計画：「地域移行型」「拠点校（合同部活動）型」「地域連携型」。
- ・町部活動在り方検討委員会：令和5年度2回開催。移行方法検討中。

(4) 学校運営

- ・小学校1校において、授業中の離席児童や児童間トラブルなどの対応に追われ、落ち着いた学校運営ができていない。
- ・コミュニティ・スクール推進、特色ある学校づくり推進事業により、地域とつながる活動が広がっている。
- ・コロナ禍を経験し、行事等の在り方が見直された。
- ・教職員の働き方改革。R4教職員時間外勤務時間：小学校 43.1 時間、中学校 30.9 時間。「学校業務改善プラン」推進。
- ・施設の老朽化による修繕多数（大栄中 59 年、大栄小 50 年経過）。R5 大栄小大規模改造設計中。大栄小プール老朽化。

2 対応の方向性

(1) いじめ

- ・早期発見・早期対応の継続。
- ・大栄中3年生事案、対応継続。
- ・啓発活動・人権教育の継続。

(2) 不登校

- ・スペシャルサポートルーム R6 開設検討。
- ・校区ごとのスクールソーシャルワーカーの配置検討。

(3) 部活動地域移行

- ・移行可能な部から先行させる。
- ・学校部活動と地域クラブの併存が想定されることでの、両者で異なる負担や要件の差の整理。
- ・移行の受け皿となる地域クラブの育成や、指導者の確保の推進。

(4) 学校運営

- ・コミュニティ・スクールの一層の推進。
- ・コロナ禍で縮小を余儀なくされていた PTA 活動の活性化。保護者同士のつながりの再強化の推進。
- ・教職員の時間外勤務の縮減に向けた取組継続。教育 DX の推進、校務の分離化とその体制強化。
- ・R6 大栄小大規模改造工事。